

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 10 回松阪市過疎地域の活性化を考える会
2. 開 催 日 時	令和 2 年 6 月 25 日(木) 午後 7 時～午後 10 時
3. 開 催 場 所	飯高地域振興局 第 2 会議室
4. 出席者氏名	(委 員) ◎佐々木会長、○寺脇副会長、木下会員、久保会員、堀川会員、榊原会員、高木会員 (事務局) 飯南地域振興局 地域振興課 堀川課長、森本主幹、飯高地域振興局 地域振興課 尼子課長、土記 (地域おこし協力隊) 横山陽子 (地域づくり連携課 移住促進係) 内田係長、清川主査
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市企画振興部 飯高地域振興局 地域振興課 土記 TFL 0598-46-7111 FAX 0598-46-1092 e-mail chishin.taka@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 中間とりまとめ市長報告の概要報告
2. 令和 2 年度事業について
3. 意見交換
 - ①地域資源（アウトドア）と観光交流人口をつなげる仕組み
 - ②空き家バンク登録数を増やすために必要なこと
4. その他

第10回松阪市過疎地域の活性化を考える会 議事録

日時：令和2年6月25日（木） 午後7時～午後10時

場所：飯高地域振興局 第2会議室

事項

1. 会長あいさつ
2. 中間とりまとめ市長報告の概要報告
3. 令和2年度の市の取り組みについて（重点プロジェクト）
4. 意見交換
5. 最終年度の過疎地域の活性化を考える会スケジュールについて（案）
6. その他

出席者

会員 佐々木 幸太郎（会長：松阪西部商工会）

寺脇 政彦（副会長：住民協議会推薦）

堀川 由美（住民協議会推薦）

久保 一也（住民協議会推薦）

木下 幸一（住民協議会推薦）

高木 達彦（飯高地域振興局）

榊原 典子（飯南地域振興局）

地域おこし協力隊 横山 陽子

地域づくり連携課 移住促進係） 内田係長、清川主査

内容

1. 会長あいさつ

佐々木会長 前回の会議は2月10日に行われたが、そのころと比べ、コロナウイルスの影響により情勢が大きく変わってしまった。コロナウイルスの影響により、地域行事が中止になるなど地域活動が停滞し苦しい状況であるが、このピンチをチャンスに変えていくことが大事である。

コロナウイルスは感染予防のため、屋内での三密を避けることが提唱されているが、これは自然体験などのアウトドア及び都市部での生活よりも田舎での生活のほうが感染リスクを抑えられるため、移住促進についても追い風となると考えている。

2. 中間とりまとめ市長報告の概要報告

佐々木会長 過疎地域活性化を考える会については、今年度が最後となる。4月

に市長へ中間とりまとめの報告を行った。市長からも、コロナウイルスが収束した際は、香肌峡の魅力を発信するチャンスとの意見があった。さらに、現在使用していない施設をテレワークができるよう活用する、飯高駅周辺に宿泊施設を建築していきたいなど、前向きな意見交換を行うことが出来た。

3. 令和2年度市の取り組みについて(重点プロジェクト)

- 佐々木会長 行政より令和2年度の取り組みについて報告をお願いします。
- (1)過疎地域魅力アップ整備事業
- 尼子課長 ・まつさか香肌イレブンプロジェクト
・香肌峡 PR 看板の設置
- (2) 地域おこし協力隊活動事業
- 内田係長 ・令和2年度地域おこし協力隊募集
・令和元年度地域おこし協力隊活動報告
- 横山隊員 1. 空き家の推進活動
2. 飯南高校の魅力発信
3. 民泊推進活動
4. 食品の新商品開発
- (3) 田舎暮らし交流移住促進事業
- 内田係長 ・まつさか移住交流センターの開設
・田舎暮らし体験、お仕事体験、地域活性化セミナーの開催、地域のマップ作成
・サテライトオフィスの開設
- (4) その他継続事業の実施
- 尼子課長 ・自然体験イベント
堀川課長 ・サイクリングイベント

4. 意見交換

テーマ 香肌峡の自然と来訪者をつなげる仕組みづくりについて
(会員等からの意見は次のとおり)

- ・自然体験イベントについて、季節を感じられる時期に開催することによって、より魅力が向上する。
- ・近年アユ釣りに活気がないので、アユ釣りを魅力発信のために力を入れてみるのはいかがでしょうか。
- ・飯南・飯高地域は綺麗な花の種類は多いが、数が少ない。綺麗な花を楽しめる環境

作りをするといいと思う。

- ・サイクリングイベントについて、国道沿いに背の高い雑草が生えている箇所があるため、環境整備を行えばより魅力的なイベントになる。

- ・登山について、まつさか香肌イレブンでの PR によって、登山者が増えると思うが混雑することが予想されるため、3密を避けるなど新型コロナウイルス感染予防の対策が必要になる。また、登山道で看板がわかりづらい場所があるので、そういった箇所の整備が必要である。看板を整備することによって、登山者の安全もそうだが、遭難が発生した際、救助側の負担が軽減される。

- ・安全な登山をするために、ガイドがいるほうが良い。しかし、プロのガイドを要請するのは現状厳しく、地域の方のボランティアでのガイドについても長時間のガイドとなると、厳しい状況である。この辺りの環境づくりを今後検討していく必要がある。また、登山についての情報をひとまとめにして、情報提供できるような組織づくりが出来れば、より魅力発信につながる。

- ・まつさか香肌イレブンについて、整備後もツアー会社に利用してもらうために、登山道を維持していく必要がある。これには、山岳会の協力、登山に興味がある人を組織化し維持していく必要がある。

テーマ 空き家バンクの登録推進について

(会員等からの意見は次のとおり)

- ・空き家バンクの登録物件数が少なく、人気の物件については10人待ちのものもある。現状のシステムの場合、10番目の方への物件の案内が最悪半年後となる。これは、物件の案内を物件登録者と応募者を1対1で面談していることが影響していると考えられる。よって、物件案内の方法を物件登録社と応募者全員をまとめて面談を行うなど、今後見直していく必要がある。

- ・地域の方に物件の紹介をお願いしているが、成果は乏しい。地域おこし協力隊の活動はかなり効果があり、今年度5件登録が決まった。

- ・空き家の情報を収集するには、とにかく地域住民と数多くのコミュニケーションを図る必要がある。また、空き家の情報が集まりにくいことから、空き家の情報を集めることに特化した組織があればよいと思う。

- ・移住促進事業を推進するには、地域住民の理解が必要である。そのため、移住希望者の同意を得た上であるが、回覧板などで移住希望者の情報を掲載するなどして、移住促進事業を地域住民に身近に感じてもらう必要がある。

- ・移住者と地域を結びつけることも課題となっている。地域に溶け込めない移住者が増えると、地域が移住者や移住促進事業に対しネガティブなイメージを持ってしまう。そのため、移住者に対し地域の会合への参加を義務付けるルール作りであったり、移住者のみで作るコミュニティがあればいいと思う。また、移住促進事業にて移住をしてきた場合、地域面談を行っている。地域面談にて本来であれば移住者と地域がつながっているはずなので、地域面談にも力を入れていく必要がある。

・空き家バンクの登録物件数が伸びない要因として、当事者間による契約交渉もネットワークになっていると感じる。契約交渉の経験がない方が多く不安に感じて、空き家バンクへの登録をためらっている人が多いと思う。これまでも、家主より価格設定についてアドバイスを求められるケースがあったが、行政側より金額を提示することはできない。ただ、あまりにも安い価格を設定している場合は、もう一度考え直すように伝えることはある。

・今後、松阪西部商工会など地域に根付いている団体との連携を図っていくのも効果的と考える。

5. 最終年度の過疎地域の活性化を考える会スケジュールについて(案)

・平成29年度11月発足。任期令和3年3月末。

・第2回 令和2年11月頃・・・最終とりまとめに向けて

・第3回 令和3年3月頃・・・最終報告及び今後の会のあり方の提言

佐々木会長 過疎地域の活性化を考える会の任期は今年度末までである。そのため次年度以降の組織の必要性及びあり方について、最終回においてご意見、ご提案をいただきたい。

6. その他

・地域みらい留学 オンライン導入及び研修 7月3日(金) 16時～18時

オンライン合同説明会 7月25日・26日

・飯南高校フィールドワーク 7月14日(火) 飯南(横野・深野・有間野)
飯高(宮前・赤桶)

・香肌小学校親子山村留学現地説明会 8月6日(木) 香肌小ほか

・市長と語る会 7月17日(金) 19:30～ 飯高総合開発センター

8月4日(火) 19:30～ 飯南コミュニティセンター

・次回開催日について

佐々木会長 次回の過疎地域の活性化を考える会の開催について、10月下旬頃を予定している。

榊原会員 次回日程の詳細については、別途飯南地域振興課より案内を行う。会場については、飯南地域振興局で開催を行う。

以上